

この形が表す意味は？ 舟

漢字というのは字そのものに意味がある表意文字の一種で、意味を示そうとする物の形をなぞった象形文字でもあります。例えば「船」の字は、以下の部分から成立しています。



船 = 舟 + 八 + 口
船体 8 人

文化大革命の時、中国の毛沢東主席が漢字の簡略化を推進したために、多くの漢字から本来の意味を示す形が失われてしまいました。しかし元々の形状は、古代の物品に残された甲骨文字から知ることが可能です。

船の文字の三番目の要素部分は「口」ですが、「人口」という単語で使うように、人の数を意味します。聖書に書かれたノアの箱船の話をご存知ですか？ 人の罪ゆえに、創造主は世界をおおう洪水で地を裁き、地上の生き物が壊滅しましたが、8人の人が箱船に乗って助かったという出来事です。この漢字はまるでそのことを表しているようです。創世記7：13「ちょうどその同じ日に、ノアは、ノアの息子たちセム、ハム、ヤベテ、またノアの妻と息子たちの三人の妻といっしょに箱船に入った。」

大洪水の後ノアの子孫たちは町を建てて住み始めましたが、再び墮落し、高ぶるようになりました。そして神（創造主）のようになろうとして巨大なバベルの塔を建て始めたのです。その頃すべての種族の言語は同じでした。しかし創造主は彼らの言葉を乱したので、人々は別々の言語を話すようになりました。中国語もそこで生まれたということです。



ノアの箱船

それは今から 4500 年ほど前のことですが、その後中国語を使う人々が、自分たちの知る歴史を、意味を込めた文字に表して書き綴ったのでしょう。これは旧約聖書がヘブル語で書かれるより少なくとも 700 年前のことでした。



バベルの塔

上帝

当時から中国の人々は、シャンディというあらゆる神々の上にいる神（創造主）を崇拝していました。その名は上'の'帝と書かれ、地と全天の創造主です。AD620 年ごろの中国へのキリスト教伝来より千年ほど前に書かれた中国の古典である『尚書』『史記』等は、「上帝'の'特質について述べています。例えば史記には、皇帝が人民を統治するためには天に従い、愛と憐れみと正義で治めなくてはならず、善を行い清い心を持った皇帝だけが天に捧げものをするを許されるとありますが、これはヘブル語の聖書に記された唯一の創造主、ヤハウェ（ヘブル語で יהוה）のご性質と一致するものです。

聖書は、およそ 6000 年前に創造主が全世界を創造し、歴史が始まった（創世記 1：1）、また創造の第6日目には地のちりから最初の人々が造られ、アダムと名付けられたと告げています。ところで「造る」という字は、「告'げる'（右）と「しんにゆう（歩くの意）'（左）でできています。さらに、「告'は、「ノ'（いのち）、「土'（ちり）、「口'から成っています。まるで創造主がアダムにいのちの息を吹き込んだ様子を表しているかのようです。



告土 + ノ + 口
ちり いのち

また、創造主はアダムのあばら骨から女性エバを造り、彼らを完全な環境を持つエデンの園に住まわせて下さったとありますが、中国語で「妻'は人の内にいるという意味の言葉です。エバはアダムの内のあばら骨から造られたことと関連しているようです。

肉 内 + 人 = 内人
(妻)

田

食物を育てる「田圃'あるいは「園'を意味する漢字は、四角い圃いの中央部から 4 本の川が流れ出るさまを表していますが、エデンの園からは 4 つの川が流れ出ていたと聖書は告げています。

創造主はアダムに園のどの木からでも食べてよいが、善悪の知識の木から取って食べてはならないと命じました。彼らが自由意思で創造主に従うようにと与えられた警告でした。「禁'の字は「禁断'禁止'の意味ですが、二本の木と、「神'の警告'という意味の「示'という部分から成っています。

林 + 示
2本の木 神の警告

禁

ノ + 田 + ル + ム = 鬼
動く 園 人のような こっそり 悪魔

二本の木はエデンの園の重要な木を表し、二本目の木は「いのちの木'という名でした。そしてエバは「善悪の知識の木'に隠れていた悪魔（サタン）から誘惑を受けたのです。

广 + 林 + 鬼 = 魔
覆い 二本の木 悪魔 誘惑する者

それを食べると死ぬと創造主に言われていたが、その木の実の魅力で自分を賢くしてくれるように見えたのでエバはそれを取って食べ、夫のアダムにも与えました。

身 + 果 = 裸

彼らは創造主に背いて罪を犯してしまったのです。そして彼らは自分が裸であることに気づきました。「裸'を意味する漢字はいくつかありますが、注目すべきは「身'と「果'を合わせてあるものです。創世記の記事と関連なくして意味が通らないからです。

ネ + 一 + 口 + 田 = 福
創造主 最初 人 園 祝福

創造主は最初の人アダムを「祝福'として園に置きました。この字は「幸福'も意味していました。しかし罪の結果、地とすべての被造物は呪われ、人とその妻はエデンの園から追い出されました。そしていのちの木の実を食べて永遠に生きることはできなくなったのです。

困

創造主は、天使と炎の剣を置いて、人が園といのちの木に近づけないようにされました。世界は呪われ、人は顔に汗を流して糧を得なければならなくなりました。この字は「困難'という意味ですが、「いのちの木'のある園が壁で囲まれているのを表しています。

「男'という字は「園'の外で「力仕事'をするのを表しています。

男

「初めに、神（創造主）が天と地を創造した。」（創世記 1：1）とあるように、ビッグバンではなく、「上帝'、ヘブル語では「ヤハウェ（みずから存在するという意味）'、被造物ではなく永遠に存在する方がすべてを創造したのです。たまり水の澱みのようなものから何十億年もかけて進化したのでもありません。

「神（創造主）は人をご自身のかたちとして創造された」（創世記 1:27）



地球上のすべての人はアダムの子孫です。エデンの園でアダムとエバが創造主に背き罪を犯したので、創造主は彼らと全世界を呪われました。

「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。」(ローマ5:12)「罪から来る報酬は死です。しかし、神(創造主)の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ6:23)すべての人は死に値します。「すべての人は、罪を犯したので、神(創造主)からの栄誉を受けることができない」(ローマ3:23)しかし、その罪の罰をイエス・キリストが十字架に架かって身代わりに受けてくださいました。それは聖なる創造主だけに可能です。

林

イエスは、罪ある私たちの身代わりとして、彼を信じる者のために十字架で死なれました。彼は、隔っていた園の壁を打ち壊しました。それで私たちは(比喩的に)園に入っているの

の木の実を食べ、永遠のいのちを得られるのです。あなたはそれを望みますか? それとも悪魔のこぼれを選んで創造主を拒否してしまいませんか?

完全に正しく生きられる人はいません。努力で天国に到達できるほど正しい人はいません。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神(創造主)からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです。」(エペソ2:8,9)

羊 + 我 = 義
ひつじ わたし 正義

キリストは私たちの罪の償いのために、身代りのいけにえとなって下さいました。それで神(創造主)の小羊とも呼ばれています。‘義’という漢字は、この意味が込められた字なのです。

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神(創造主)の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意思によってもなく、ただ神(創造主)によって生まれたのである。(ヨハネ1:12,13)

著者について

ジョン・ハートネット博士はオーストラリアの物理学者/宇宙論科学者で、聖書の創造論の世界観を持つクリスチャンです。ウエスタンオーストラリア大学から理学士(優等)と理学博士号(特待)を授与されました。現在、オーストラリアの指導的大学においてオーストラリア学術研究会(ARC)のDORA(Discovery Outstanding Researcher Award)



ジョン・ハートネット

フェローであり教授です。200以上の論文を科学誌や書籍に掲載、また学会で発表してきました。博士の研究はサファイヤ結晶の共振を用いた超高精度マイクロ波発振器と光共振器の開発、そして超高精度発振器を用いた特殊、一般相対性理論など物理理論の基本検証法などです。

公式サイト johnhartnett.org

書籍のご案内

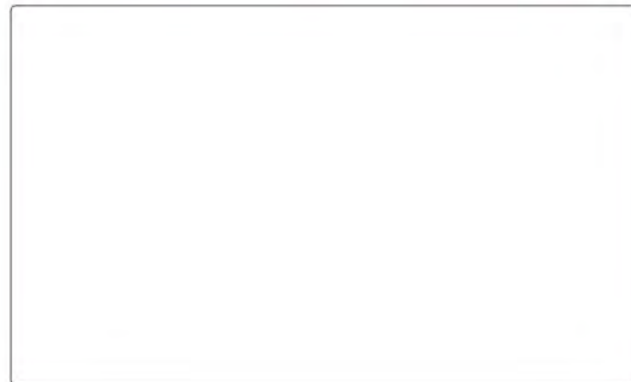


ジョン・ハートネット博士の著書 「光年の謎と新宇宙論」

『若い宇宙でなぜ何億年も彼方の星の光が見えているのか? 今日、'数千年前、創造主が六日間で世界を創造した'という考えは非科学的以外の何物でもないとされている。しかし、それは、他よりはるかに良く観測事実を説明するではないか。』

アレックス・ウィリアムズ
前国連国際原子力機関コンサルタント
ジョン・ハートネット著 104頁/1,000円(税別)

詳細はこちら  <http://gophertree.jp>



漢字に秘められた 真の歴史

REAL HISTORY IN CHINESE SCRIPT

ジョン・G・ハートネット 博士

